

## 放射線群書類従（第5回）

## 放射線安全取扱部会広報専門委員会

## 1. はじめに

本企画も5回目を迎え、これまでに紹介した書籍数は50冊を超えた。それでも、本屋さんに並ぶ数多くの関連書籍数からみれば、ほんの一部かもしれないし、専門書の類も含まれているので、東日本大震災後に発刊された群書を分かりやすく分類しようという当初の企図は達成できていないかもしれない。

全6回で企画している群書類従も次回で締めくくりとなるので、面白そうな関連書籍を探して主任者の皆様を紹介できればと思う。

## 2. 評価方法及び寸評

主任者がどのような目的で書籍を探しているかの視点に立って、以下の5項目について評価する。

- ① 専門家向け：放射線取扱主任者等の専門知識を持った方々に向いている内容

- ② 一般向け：一般の方々が読んでも理解可能な内容  
 ③ 科学的：内容に科学的な裏付けがある  
 ④ 放射線影響：放射線の人体影響についての話題がある  
 ⑤ 教育訓練：放射線業務従事者の教育訓練資料として使用可能な内容

評価は4段階で示した。なお、評価自体は広報専門委員の主観である。

- ◎：非常に多い、または、とても向いている  
 ○：多い、または、向いている  
 △：ある、または、多少触れている  
 ー：ない、または、評価対象外

企画の趣旨を踏まえて忌憚無く意見を述べさせていただくことをご容赦いただきたい。また、書籍の内容全体が分かるように、2~3行の寸評を記載する。こちらも評価と同様に専門委員の主観である。

「放射能」は怖いのか 著者：佐藤満彦 文藝春秋 2001年6月1日初版  
 新書判・238頁・725円（税込）

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	◎	△	◎	◎	○
寸評：放射線影響を基礎から学べるように書かれている。主任者にとっては、放射線生物学をよりよく理解するためには有効である。(Y.Y.)					

## 主任者 コーナー

「リスクとつきあう—危険な時代のコミュニケーション」 著者：吉川肇子 有斐閣 2000年3月1日初版  
四六判・234頁・1,680円（税込）

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	◎	△	◎	◎	◎

寸評：リスク・コミュニケーション入門書。科学的データを正確に伝えさえすれば社会的受容が高まると思っている人が多いが、そうではないことは福島第一原発事故以降の様々な失敗例が示している。社会的受容を高めるためには、意思決定に一般の人々や地域社会を関わらせることが重要であることを著者は指摘している。受容可能なリスクではなく我慢はできるリスクというアプローチは現実的な方策になり得る。(H.Y.)

「放射線及び環境化学物質による発がん—本当に微量でも危険なのか？」 著者：佐渡敏彦ほか 医療科学社 2005年12月20日初版  
B5判・270頁・3,990円（税込）

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	○	△	◎	◎	△

寸評：放射線による発がんリスクの大小を論じる上で、生活習慣や環境化学物質による発がんリスクとの比較は重要である。DNA 損傷 → 突然変異 → 遺伝的不安定性 → 形質転換をドグマとする発がんセオリーは、放射線に対しても化学物質に対しても同様に適用され、事実、化学物質による過剰発がんリスク評価にも LNT 仮説は登場する。本書では、多くの実験、調査事実に基づき、大胆かつ極めて理論的に「比較リスク生物学」が展開されていく。(N.M.)

「リスク学入門5 科学技術からみたリスク」 編集：益永茂樹 岩波書店 2007年9月4日初版  
A5判・196頁・2,940円（税込）

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	◎	◎	◎	○	△

寸評：東日本大震災以前から、様々な分野における具体例とともに、科学とリスクの基礎知識を解説している書物である。第4章の低線量放射線被ばくのリスク評価とその防護の考え方については、今回の福島第一原発事故後の対応の意思決定の基盤となる考え方が述べられているようで興味深い1冊である。(K.O.)

「低線量放射線の健康影響」 著者：近藤宗平 近畿大学出版局 2005年11月1日初版

A5判・250頁・不明

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	◎	—	◎	◎	○

寸評：様々な研究データを使って、低線量放射線影響について解説されている。人体影響特に疫学調査についても網羅的に述べられており、放射線影響についてより詳しく知りたい主任者にとっては有益。(Y.Y.)

「放射線のものさし」 著者：中川恵一 朝日出版社 2012年10月25日初版

四六判・208頁・1,260円(税込)

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	◎	○	◎	◎	—

寸評：放射線医である著者らが原発事故直後から使命感に駆られて、1年半の間に何を行ってきたかをまとめている。ツイッターで情報発信したことが誤りだったという反省も含まれた内容になっている。危険だと言わないと御用学者とのレッテルを貼られるこのご時世、専門家にとってのリスクコミュニケーションの難しさを思い知る1冊。(S.H.)

「科学者が人間であること」 著者：中村桂子 岩波新書 2013年8月21日初版

新書判・250頁・840円(税込)

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	○	◎	△	—	—

寸評：東日本大震災以降、科学者はどうあるべきかを述べた1冊。放射線に関する内容はわずかで、より巨視的な視点で世界観が論じられている。哲学的ともいえるが、文章も難しくなく、よく知られた言葉の引用も多いため非常に読みやすい。科学の在りようを考えるきっかけが詰まっている。(A.S.)

「放射線医が語る被ばくと発がんの真実」 著者：中川恵一 ベスト新書 2012年1月1日初版

新書判・191頁・800円(税込)

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	○	◎	◎	○	○

寸評：福島第一原発事故の放射能汚染に対し、我々と行政は何にもっとも留意すべきかを、放射線医としての専門家の立場から、チェルノブイリ原発事故と広島・長崎の被爆を対比させながら熱く語っている。(Y.U.)

## 主任者 コーナー

「家族で語る食卓の放射能汚染」 著者：安齋育郎 同時代社 2011年4月26日初版

B6判・219頁・1,260円(税込)

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	◎	◎	◎	◎	○

寸評：タイトルからは想像もできないほど、放射線のことが基礎から分かりやすく解説されている。書かれていることをイラスト化すれば、小学生への説明にも使えそうだ。(A.K.)

「人は放射線になぜ弱いのか」 著者：近藤宗平 講談社ブルーバックス 1998年12月20日初版

新書判・282頁・1,029円(税込)

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	◎	○	◎	◎	○

寸評：いかに人が放射線に強いのか、あまりに放射線を怖がり過ぎていないかという観点で書かれている。放射線影響を真に知るべき主任者にとって一度は読んでおきたい。第Ⅶ章「原発事故放射能にびくともしない人体」は今こそ読み直すべきであろう。(Y.Y.)

「暮らしの放射線 Q&A」 著者：日本保健物理学会「暮らしの放射線 Q&A 活動委員会」 朝日出版社 2013年7月15日初版

A5判・416頁・2,940円(税込)

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	◎	◎	◎	◎	◎

寸評：福島第一原子力発電所事故直後から始まった、一般市民からの質問に対する科学者メンバーの回答の記録集。あらゆる質問に対して現状の科学的根拠を示しながら真摯に回答しようとする姿勢、それでも「正確さと分かりやすさを両立させるのは非常に難しいことでした」とあることに、専門家として深く考えさせられた。(M.M.)

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	○	◎	◎	◎	○

寸評：東京電力福島第一原発事故後、1,800余の質問に答えてきた放射線防護の専門家たちの記録をまとめた1冊。誰がどのような質問をして、それをどう答えたかは興味深い。個々の質問に真摯に向き合った姿勢には脱帽。医療被ばくの相談を受ける施設においては参考となるであろうおすすめの本1冊です。(K.O.)

〔書評者一覧(50音順)〕

池本祐志, 上養義朋, 小野孝二, 川辺睦, 鈴木朗史, 桧垣正吾, 松田尚樹, 宮本昌明, 矢鋪祐司, 吉田浩子